

**(6) ファカルティ・ディベロップメント委員会****① 設置の趣旨（目的）及び組織****ア 組織設置の趣旨（目的）**

ファカルティ・ディベロップメント（以下「FD」という。）委員会は、上越教育大学における教育活動の質的向上と発展を期して、FD活動を実施することを目的としている。

**イ 組織の構成及び構成員等**

FD委員会は、①FD担当の副学長、②各専攻・コースから選出された教授又は准教授（講師及び助教を含む。）、③その他学長が指名した者の計13人で構成されている。

**② 運営・活動の状況****ア 委員会等の開催状況**

平成29年度は、以下のとおり委員会を3回開催した。

- ・ 第1回 平成29年5月11日（木）
- ・ 第2回 平成29年11月8日（水）
- ・ 第3回 平成30年1月24日（水）

**イ 審議された主な事項**

- i) 平成29年度FD活動計画
- ii) 平成29年度年度計画に係る実施計画の作成
- iii) 平成29年度授業公開の実施
- iv) 平成29年度学生による授業評価の実施
- v) 平成28年度学生による授業評価報告書の作成
- vi) 平成29年度前・後期「学生による授業評価アンケート」の集計結果に基づく自己評価レポートの作成
- vii) 平成29年度FD研修会及びFD講演会の実施

**ウ 重点的に取り組んだ課題や改善事項及び前年度の検討課題への取組状況等****i) 平成29年度FD研修会及びFD講演会の実施**

FD活動の一環として、アクティブ・ラーニングを積極的に取り入れることにより、学校現場でアクティブ・ラーニングを実践できる教員を養成することを目的として、平成30年2月21日（水）に、前年度FD講演会から引き続き、愛媛大学学長特別補佐の小林直人教授（教育企画室長）を講師として平成29年度FD研修会及びFD講演会を開催した。

授業及び研究指導の内容及び方法の改善を図ることを目的として開催された研修会では、まず講師による「アクティブラーニングによる授業改善、その考え方と具体的な手法（Ⅱ）－医学部での実践を通じて－」をテーマとした講演の後、講演内容を踏まえたグループ討議及びその討議結果の共有と講師からの助言等の流れで進められた。

研修会には、アクティブラーニングの積極的な導入に取り組む教職員17人、ティーチング・アシスタントを中心とする学生10人が出席した。

引き続き、講演会では、「学生の主体的・対話的な深い学びを高めるアクティブラーニングによる授業実践－医学部での成果と課題を踏まえて－」をテーマとし、大講義室にもかかわらず、模擬

授業も取り入れながらアクティブラーニングの基本的な考え方や講義法が紹介された。

講演会には、教職員及び学生約120人が出席した。

ii) 学生による授業評価に係るシステムの導入

本年度の授業評価の実施に当たっては、前年度に「機能強化促進経費」として予算措置されたことにより構築したWeb入力による授業評価アンケートシステムを導入し、授業評価の基本的な流れを変更せずに業務を効率化できるよう図った。

### ③ 優れた点及び今後の検討課題等

#### ア 優れた点

- i) 平成29年度FD研修会の参加者から、「自分自身の授業の課題に気づくことができた」や「講師，参加者から、様々な観点からの話を聞くことができ、意義あるものだった」等の感想が寄せられた。
- ii) 平成29年度FD講演会に参加した教員から「大講義室で授業を行う際のヒントを、模擬授業を通して得ることができた」や「学生の視座から体験的に学べて良かった」等の感想が寄せられた。また、学生からも「有効な具体策を提示していただき、教育実習でも実践したい」や「今後の授業実践で役立てられそうな方法を学ぶことができた」等の感想が寄せられた。
- iii) 本年度よりWeb入力による授業評価アンケートシステムを実施し、授業評価アンケートの効率的な実施及びコストの削減に寄与した。

#### イ 今後の検討課題

- i) 中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う資質能力の向上について（平成27年12月21日）」の中で指摘されている「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善等に対応した教員養成への転換」の実現に向けた取り組みの継続
- ii) Web入力による授業評価アンケートシステムに係る回収率の向上
- iii) 授業公開における参観者数の向上